

2025 東京科学大学（前期）：医歯学系 英語 概評

出題分析			
試験時間	90分	配点	120点
		大問数	6題
分量（昨年比較）	[減少 同程度 増加]	難易度変化（昨年比較）	[易化 同程度 難化]
<p>【概評】</p> <p>出題形式は例年通りで、1つの長文に基づき、同義語選択、指示語説明、内容真偽、英問英答、下線部和訳、400字の内容説明問題の出題。英文量は昨年度よりやや増加したものの、語彙・表現の難易度は同程度であった。内容真偽問題は、本文の内容を正確に把握できれば解答できるものがほとんどであったが、一部判断に迷うものが含まれていた。400字の内容説明は、様々な事例の中から必要な情報を抜き出し、制限字数内に収める必要があり、90分という試験時間を考えると依然として負担の大きい問題である。全体の難易度としては、英文が昨年度通り専門的な内容であり、理解するのに時間を要するため、全ての学科において同程度と言えるだろう。</p>			

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
1～6	長文読解問題 （培養肉の意義と可能性について） （保健衛生学科・口腔保健学科は1, 2, 3, 5, 6を解答、医学科・歯学科は3, 4, 5, 6を解答する。）	1は長文中のイタリック調で太字の単語10個の同義語選択。問われている語彙の多くは標準レベルの語彙であり、また単語の意味を知らなくても文脈から推測して答えられる設問である。	やや易
		2は5つの語（句）の指すものを1～5語の英語で答える問題。落ち着いて文章を読んでいれば決して難しくはない。	やや易
		3は長文の内容に関する文章の内容真偽問題。全24問。昨年度同様、判断に迷う設問はそれほど多くない。ただし、細かいところまで確認しないと判断できない設問もある。1問1問のレベルは標準であるが、設問数の多さも受験生にとって負担の大きい問題である。	標準
		4は本文の内容に関する質問に英語で答える問題。「自分の言葉で」という設問指示があり、どの程度英作文の対策をしてきたかで明暗が分かれる。	標準

設問別講評			
		5は長文中の下線部和訳が2問。語彙、英文構造ともに標準レベルであるので素早く処理したい。	標準
		6は昨年度と同様、3つのキーワードを用いて、本文の内容を400字以内でまとめる問題。「培養肉が人間の健康と地球環境に対して与える影響」についてまとめる。上記テーマについて様々な情報が挙げられている中から、指定されたキーワードを手がかりに必要な情報を盛り込む必要がある。	標準

合格のための学習法
<p>理（医）系の内容の超長文が課せられることが多く、日本語での長い説明問題があることも特徴であるため、この2点に対する十分な対策が必要である。前者の対策としては、英文科学雑誌（あるいは一般雑誌の科学記事）を定期的に読み、学術語彙などに通じておきたい。後者の対策としては、東京医科歯科大の過去問に取り組むのはもちろんであるが、それ以外にも、早い段階から英文要約練習を積むとよい。英文要約を大問として出題するのは東京大学や広島大学などがある。こうした他大学の類問も利用しながら、英文の論旨をつかむ力を高めてほしい。</p>